

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/04/01

株高・原油高の転調に注意

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	産油国の生産調整の動向は？ 予想レンジ: 82.000 ~ 90.000 円	2 - 3
NZドル/円	➡	GDT物価指数やRBNZ声明も手掛かり 予想レンジ: 73.000 ~ 80.000 円	4 - 5
ランド/円	➡	下げるときは早い 予想レンジ: 7.000 ~ 8.000 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

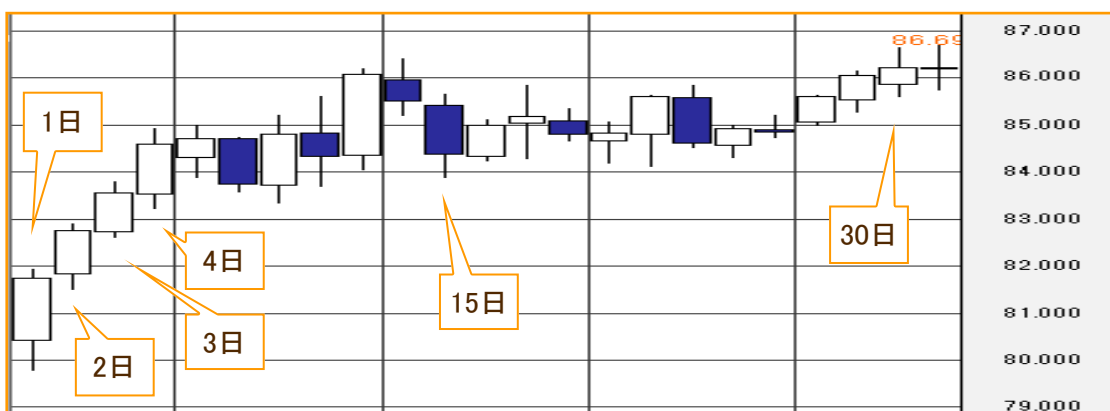
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 3月の推移

AUD/JPY

3月の豪ドル/円相場は79.802～86.698円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約7.2%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

月初、豪ドルは上昇した。豪州の10-12月国内総生産(GDP)など国内指標が予想以上の好結果だった事や、原油価格が大きく値を戻した事、ユーロ圏が追加緩和を行い、リスクオンムードが加速した事も相まって、3月14日には86.415円まで上昇。その後はNY原油価格が伸び悩んだ事もあり、しばらく84円ちょうど前後から86円前半でのレンジ相場が続いた。豪中銀(RBA)の理事会議事録に目新しい情報は見られなかったが、引き続き追加緩和の可能性を残していた事から、豪ドルそのものを積極的に買う要因がなかった事も要因の一つだろう。もっとも、下旬に米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の講演によって米国の早期利上げ期待が後退すると、一般的にリスクオンムードが加速。これが追い風となり、豪ドル/円は月末にかけて86.698円まで上昇。原油安などを背景に大幅安となった2月の下げ幅を消した形となった。



四本値

OPEN	80.447
HIGH	86.698
LOW	79.802
CLOSE	86.225

1日	10時発表の2月中国製造業PMIが49.0(市場予想:49.4)、10時45分発表の2月中国財新/製造業PMIが48.0(同:48.4)と弱い結果が重なる中、豪ドル/円は79.802円まで一時下落。その後に豪中銀(RBA)が政策金利の据え置きを発表し、発表直後は豪ドル高で反応したが、声明が「低インフレで一段の緩和余地も」「緩和的な金融政策は適切、現在の政策スタンスが適切と判断した」「持続的な経済政策に向けた合理的な展望があると判断」「市場の動揺が需要後退の予兆となるか見極める」「労働市場の改善が続いているかどうか判断を下す」と、前月と変わり映えしなかったものの、緩和方向睨みの内容だったため上昇は一時的だった。もっとも、その後はNY原油の上昇などを追い風に81.90円台まで上昇した。
2日	格付け会社ムーディーズが中国の格付け見通しを「ネガティブ」に引き下げると、豪ドル/円は一時81.513円まで下落。ただし、その後に発表された豪10-12月期国内総生産(GDP)が前期比+0.6%(予想:+0.4%、前期分:+0.9%→+1.1%)、前年比+3.0%(同+2.5%、前期分:+2.5%→+2.7%)と好結果だった事を受け、豪ドル/円は反発した。
3日	豪1月貿易収支が29.37億豪ドルの赤字(予想:32.00億豪ドルの赤字)となった。これを受けて豪ドル/円は上昇した。
4日	米雇用統計の結果を好感してNYダウ平均が上昇した事や、NY原油が週間のリグ稼働数の減少(石油サービス会社ベーカー・ヒューズ発表)を好感して上昇した事を追い風に豪ドル/円は84.925円まで上昇した。
15日	RBA議事録は「低インフレが利下げ余地に繋がる可能性」「現在の緩和的な金融政策は適切」「中国は人口動態と生産性の伸びの変化が成長抑制要因になる可能性も」などとあり、声明と変わり映えしない内容だったことから豪ドルの反応は限定的。しかし、その後に日銀が金融政策の据え置きを発表すると円買いが強まったことで豪ドル/円は下落した。
30日	29日のイエレンFRB議長の講演内容が市場で「予想よりもハト派的だった」と受け止められた事を受け、NY原油が堅調に推移し、NYダウ平均も高寄りする中で豪ドル/円は86.655円まで上昇した。なお、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計において、原油在庫が市場予想ほど増えなかった上、ガソリン在庫が市場予想以上に減少した事もNY原油の上昇に寄与した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	16013.00
HIGH	17291.35
LOW	15857.37
CLOSE	16758.67

NYダウ平均

OPEN	16545.67
HIGH	17790.11
LOW	16545.67
CLOSE	17685.09

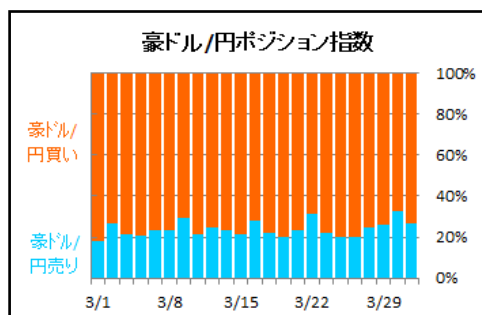
上海総合指数

OPEN	2688.380
HIGH	3028.322
LOW	2668.757
CLOSE	3003.915

豪10年債利回

OPEN	2.370%
HIGH	2.702%
LOW	2.315%
CLOSE	2.489%

3月のポジション動向



4月の豪州・中国の注目イベント

- ・3月中国財新製造業PMI(1日)
- ・香港・上海休場(清明節、4日)
- ・2月豪小売売上高(4日)
- ・2月豪貿易収支(5日)
- ・RBAキャッシュレート(5日)
- ・3月中国貿易収支(13日)
- ・3月豪雇用統計(14日)
- ・1-3月期中国GDP(15日)
- ・RBA議事録(19日)
- ・スティーブンスRBA総裁講演(19日)
- ・豪州休場(アンザックデー、25日)
- ・1-3月期豪消費者物価指数(27日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

4月の見通し

3月に発表された豪州の経済指標をみる限り、豪州国内の情勢は悪くなく、また、株式市場や原油価格なども年始から2月中旬にかけての大幅安を取り返した。つまり、足元ではRBAが積極的に追加緩和を行わなければならないような状況にはなっていない。また、豪州内の大手金融機関は中国のリスクについては後退してきていると見ている模様で、豪ドルの見通しについてはやや強気な方向に修正してきているようだ。4月については、こうした3月からのムードが継続し、一段高を目指せるかが焦点となる。ただ、その決め手となるほど大きな経済イベントはないため、金融市場全体のリスクオン、リスクオフムードを常時見定めるのが肝要だろう。豪ドル/円は上昇した場合、昨年12月31日の高値88.210円が第一の目標になる。ここを超えると、昨年12月4日高値の90.720円が次のターゲットとなる。

ただし、これまでの3月の豪ドルの上昇を支えた原油価格については、不安が残る。4月17日に開催される産油国の増産凍結協議については、効果的な生産調整に繋がらないとの懸念が広がっている。原油価格が伸び悩みの長期化、また下落となれば、豪ドル/円には重石となる。豪ドルは3月に対円、対ドルで大きく上昇しただけに、売り優勢に転じれば3月の上昇分を急激に消しに行く動きになる事は十分にあり得る。(石川)

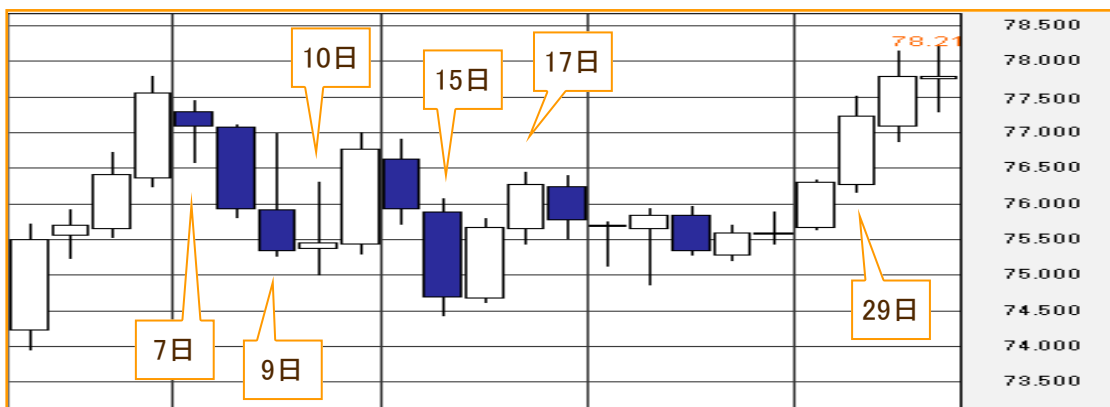
(予想レンジ: 82.000~90.000円)

NZドル/円 3月の推移

NZD/JPY

3月のNZドル/円相場は73.953~78.211円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.7%の上昇(NZドル高・円安)となった。

3月始めは原油価格の上昇に伴うリスクオンムードの中でNZドル/円も上昇。しかし、その後はNZ乳業大手フォンテラの乳製品価格引き下げの発表や、NZ中銀(RBNZ)のサプライズ利下げ及び今後の追加利下げ示唆、などが重石となって、じりじりと値を下げた。ただし、下旬に米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の講演(29日)での発言が「市場予想よりもハト派寄り」と受け止められてリスクオンムードが強まると、NZドル/円は上昇転換。月末にかけて78.211円と、2月5日以来の高値を付けた。



四本値

OPEN	74.230
HIGH	78.211
LOW	73.953
CLOSE	77.788

7日	アジア市場中は軟調に推移するも、NY市場に入ると鉄鉱石や原油など資源価格が上昇した事を受けてNZドル/円は上昇。しかし、NZ乳業大手フォンテラが2015-16年の乳価支払見通しを1kg当たり3.90NZドルに引き下げたとは発表した事から、NY市場終盤にかけて再び軟調だった。
9日	NY原油が上昇する中でNZドル/円は上昇。しかしNY市場終盤に、NZ中銀(RBNZ)が大方の金利据え置き予想に反して0.25%利下げた上、声明で「さらなる追加緩和が必要となる可能性がある」「輸出価格の下落を考慮すれば為替レート下落が適切」とした上、ウィーラーRBNZ総裁が「金利見通しは2度の利下げを織り込む」「ほとんどの中銀は低い為替レートを望んでいる」などと発言した事で、75.20円台まで値を下げた。
10日	ウィーラーRBNZ総裁が「追加利下げが必要でない可能性もある」「追加利下げはデータ次第」などと述べて小幅にNZドル高が進む場面も見られたが、一時的。欧州中銀(ECB)が市場の予想を上回る規模の追加緩和を発表すると、これを好感してリスクオンムードが広がる中でNZドル/円は一時上昇した。ただし、ドラギECB総裁が「現在の見通しに基づき、一段の利下げを予想しない」と発言した事で欧米株価が失速すると、NZドル/円も急落した。
15日	日銀が金融政策の据え置きを発表した事を受けた円高に加え、乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比で下落した事を受けたNZドル売りが重なり、NZドル/円は下落した。
17日	前日NY市場で発表された米連邦公開市場市場委員会(FOMC)の声明他の内容が市場予想よりもハト派的だったと市場が受け止めた事で株高・原油高の流れが進み、円安が進行。さらに未明にNZ10-12月期国内総生産(GDP)が前年比+2.3%と市場予想(+2.1%)を上回った事がNZドル買い要因となり、NZドル/円は上昇した。
29日	29日のイエレンFRB議長の講演内容が市場で「予想よりもハト派的だった」と受け止められた事を受け全般的にリスクオンムードが広がると、クロス円は上昇。NZドル/円は77円台乗せとなった。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	16013.00
HIGH	17291.35
LOW	15857.37
CLOSE	16758.67

NYダウ平均

OPEN	16545.67
HIGH	17790.11
LOW	16545.67
CLOSE	17685.09

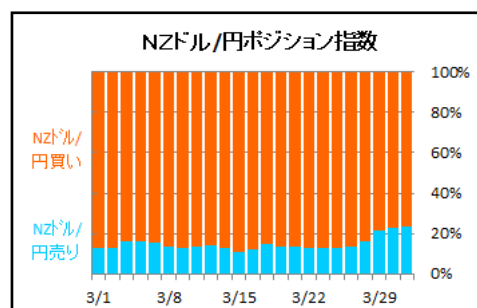
上海総合指数

OPEN	2688.380
HIGH	3028.322
LOW	2668.757
CLOSE	3003.915

NZ10年債利回

OPEN	2.965%
HIGH	3.114%
LOW	2.912%
CLOSE	2.946%

3月のポジション動向



4月のNZの注目イベント

- ・NZフォンテラ入札(5日、19日)
- ・1-3月期NZ消費者物価指数(18日)
- ・NZ休場(アンザックデー、25日)
- ・3月NZ貿易収支(27日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(27日)
- ・3月NZ住宅建設許可(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

4月の見通し

3月のRBNZの理事会でサプライズ利下げとなった上、年内の追加利下げが示唆された事で、足元のNZドルは同じオセアニア通貨である豪ドルに比べて大きく後れを取った。ただ、3月下旬からはイエレンFRB議長講演をきっかけとする金融市場全般的なリスクオンムードの中でNZドル/円も上昇しており、4月はこの流れがどこまで継続するかがまずは焦点となるだろう。上昇継続となれば、まずは2月1日高値79.378円を試す流れとなろう。ここを超えると80円台乗せも視野に入る。

ただし、原油価格は需給要因で伸び悩んでおり、これが失速すれば、このリスクオンムードに終止符が打たれて、原油安→リスクオフとなってNZドル/円が売られる可能性は十分にある。また、NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が引き続き低下すれば、やはりNZドル/円の下押し要因となるだろう。さらに、27-28日の日銀の金融政策決定会合についても、追加緩和の有無などを巡って思惑が交錯する可能性があり、これも波乱要因となる。こうしたリスク要因が4月はより意識されやすく、NZドル/円は上昇したとしても、3月上旬や下旬のように力強く上昇する局面が続くのではなく、じりじりと上昇するような形となりそうだ。一方、リスクオフムードに転換すれば、これまでの上昇分を消す形で急落する可能性があるとする。なお、月初の時点では27日のRBNZでの政策変更はないとの見方が大勢だが、金融市場のムードが転調すれば利下げ予想が出てくる可能性がある。また、そうでなくとも、声明文において近い将来の追加利下げを示唆する可能性もある。そうなれば、NZドル相場では下押し要因視されよう。(石川)

(予想レンジ: 73.000~80.000円)

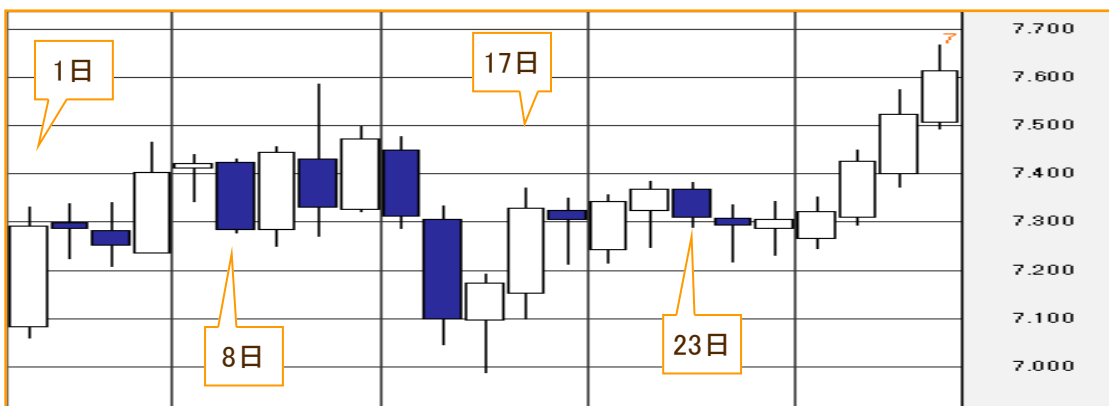
巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ランド/円 3月の推移

ZAR/JPY

3月のランド/円相場は6.989～7.669円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約7.5%の上昇(ランド高・円安)の推移となった。

月初は原油価格の上昇などを受け、為替市場全般的にリスクオンムードが強まったが、南アランドに関しては、南アフリカに対する政治・経済・財政への不安や格下げ懸念の強い中で積極的な買いが集まらない状態。中旬にかけて、7.00円前後から7.50円台のレンジでの往来となった。ただし、月末に入ると、29日に行われた米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の講演が市場の予想よりもハト派的であると受け止められ金融市場全般的にリスクオンムードが広がり、ランド/円も上値を追う展開となった。



四本値

OPEN	7.085
HIGH	7.669
LOW	6.989
CLOSE	7.617

1日	10時発表の2月中国製造業PMIが49.0(市場予想:49.4)、10時45分発表の中国2月財新/製造業PMIが48.0(同:48.4)と弱い結果が重なる中、南アランド/円は一時下落。しかし、欧州市場以降はリスクオンムードの中で上昇転換となった。なお、南ア10-12月期国内総生産(GDP)は、前年比は+0.6%と市場予想(+0.5%)を上回ったものの、前期比年率は+0.6%と予想(+0.9%)を下回った。これに対するランドの反応は限られた。
8日	主要国株安を受けて円高が進んだ上、欧州市場中に発表された10-12月期南ア経常収支が対GDP比-5.1%と予想(-4.4%)以上の赤字だった事も重石となった。また、NY市場終盤に格付け会社ムーディーズが南アフリカの格付け「Baa2」を引き下げ方向で見直すを発表した事を受けて南アランドは売りが強まり、ランド/円は下落した。
17日	南ア中銀が2016年の消費者物価指数見通しを前年比+6.6%とか、従来(+6.8%)から下方修正したものの、0.25%の利上げ(市場予想は据え置きと利上げで五分五分)を決定した事から、南アランドは上昇した。なお、クガニャゴ総裁は「成長に下向き、インフレに上向きのリスクがある」「CPIは10-12月期に7.3%でピークを迎え、2017年7-9月期に目標のレンジ内に戻る見込み」などと述べた。
23日	2月南ア消費者物価指数は前年比+7.0%(予想:+6.8%)、コア前年比+5.7%(同:+5.6%)と、双方予想を上回る結果となった。しかし、これに対するランドの反応は限定的だった。

日経平均

OPEN	16013.00
HIGH	17291.35
LOW	15857.37
CLOSE	16758.67

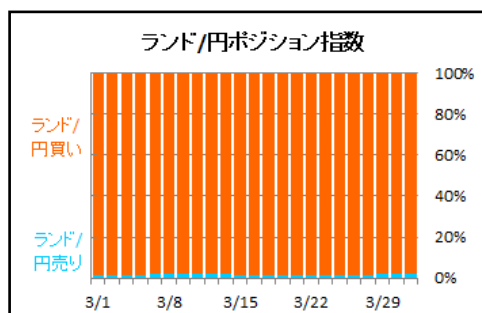
NYダウ平均

OPEN	16545.67
HIGH	17790.11
LOW	16545.67
CLOSE	17685.09

NY金

OPEN	1238.90
HIGH	1287.80
LOW	1207.70
CLOSE	1235.60

3月のポジション動向



4月の南アフリカの注目イベント

- ・2月南ア小売売上高(13日)
- ・3月南ア消費者物価指数(20日)
- ・3月南ア生産者物価指数(28日)
- ・3月南ア貿易収支(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

4月の見通し

3月中も南アランド相場はほとんど外部要因によって動いた。ただし、南アフリカについて独自の「売り材料」が台頭した場合のみ、南アランドが「下落」という形で値を下げる場面も散見された。南アの国内の状況は非常に厳しい状態が続いており、格付け会社による南アの格下げ懸念が根強い。金融市場全般でリスクオンムードの時はランド/円は他の通貨ペアに比べて控えめに買われるものの、「悪材料による売りのタイミング待ち」というムードであると見ている。このまま、3月下旬からのリスクオンムードが続けば年初来高値7.768円(1/4)に迫る可能性はあるが、ひとたびリスクオフムードが広がれば、真っ先に売られる通貨となる公算が大きい点も留意しておきたい。(石川)

(予想レンジ: 7.000~8.000円)